



★ 薬の飲み合わせ ★

薬剤科 彦坂 麻美

薬に「飲み合わせ」があるという話を聞かれたことはありますか？具体的にご存じなくても、病院で薬をもらって飲んでいる場合、他の薬をむやみに飲まない方が良さそうな気がしませんか？

以前、带状疱疹治療の抗ウイルス剤と抗がん剤を同時に使用した患者さんが16人も死亡されるという、薬の「飲み合わせ」による不幸な事故がありました。抗ウイルス剤が抗がん剤の副作用を強めてしまったのです。この事故などがきっかけとなり、2つ以上のお薬を使用した場合の「飲み合わせ」という問題が注目されるようになりました。今回はその薬の「飲み合わせ」についてお話したいと思います。



2種類以上の薬または薬と食品と一緒に飲んだ場合、薬の効きめが強くなったり、弱くなったりとお互いに作用し合ってしまうことがあります。これを薬の「飲み合わせ」、専門用語で「相互作用」といいます。

ここで代表的な「相互作用」の例を一部紹介したいと思います。



●ワーファリンと納豆●

ワーファリンは血液を固まりにくくする薬で、静脈血栓、心筋梗塞、肺塞栓、脳塞栓などの治療および予防に使用されます。ほかの薬との相互作用が多く、効き過ぎると出血、効かないと血栓形成の危険性があるため注意が必要です。身近なものでは、納豆、クロレラ、青汁などのビタミンKを多く含む食品がワーファリンの作用を阻害してしまいます。これらは薬と飲む時間とずらしても相互作用を起こしてしまいますので、どれだけお好きであっても我慢していただくしかありません。

●降圧剤とグレープフルーツジュース●

降圧剤の中には、100%果汁のグレープフルーツジュースと作用するものがあります。オレンジジュースは問題ありませんが、グレープフルーツに微量含まれるフラノクマリン系化合物は小腸粘膜に存在するCYP3A4という代謝酵素を阻害します。そのためCYP3A4により代謝される薬は、代謝されずに吸収され、薬の効果が強く出てしまう可能性があります。一部の降圧剤や免疫抑制剤、睡眠導入剤などの中に作用するものがあります。



●抗生物質と緩下剤・制酸剤●

抗生物質の中には、金属（アルミニウム、マグネシウム、鉄など）を含む薬（一部の緩下剤や制酸剤、鉄剤など）と一緒に飲んでしまうと化学反応でキレートという別の化合物を作ってしまう、吸収されずに薬の作用が低下してしまうものがあります。薬局などで売られている胃腸薬の多くは、金属を含んでいますので注意が必要です。これは抗生物質を飲んでから2時間ほどずらしていただくことで反応を避けることができます。

●その他●

アルコールや煙草、セントジョーンズワート（別名セイヨウトギリソウ）というサプリメントも薬と相互作用を起こしやすいものですので、常用されている方は伝えていただく必要があります。



思ったように薬が効かない時、思わぬ副作用が出てしまった時、もしかしたら「相互作用」を起こしているかもしれません。

そのため、医療機関を受診する際、薬やサプリメントをご自分で購入する際、必ず医師または薬剤師にどんな薬を使われているのか伝えていただくようお願いいたします。ご自分が飲んでいる薬がすぐ分かるようお薬手帳を持ち歩いていただくことも大切です。



「飲み合わせ」の悪い組み合わせについて薬の専門家である薬剤師がチェックを行っています。不明な時はいつでもお気軽にご相談ください。